有功会ながの

第31号

発　行　長野県赤十字有功会
事務局　日本赤十字社長野県支部　TEL 026-226-2073　FAX 026-223-4181
〒380-0836　長野市南県町1074　URL https://www.jrc.or.jp/chapter/nagano/

ごあいさつ

長野県赤十字有功会
会長　浅井　隆彦

会員の皆様には、日頃より本会の活動に深いご理解と温かいご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

昨年5月の総会で前会長の石井和男様がご退任され、代わりまして会長にご選任頂きました浅井でございます。未熟ではございますが一生懸命務めさせていただきますので、引き続きよろしくお願いいたします。

昨年を振り返りますと新型コロナウイルス感染症の分類が5類に引き下げられたことを契機に、経済活動や人の流れが回復し始め、地域イベント等も再開されるなど徐々に明るさを取り戻した年だったように思います。

こうした中、当会は講演会、研修旅行、会員増強運動等を実施いたしました。中でも研修旅行は佐賀・熊本を訪れ、日本赤十字社の前身の博愛社創設者である佐野常民の歴史館や、設立契機となった西南戦争の激戦地である田原坂等を見学し、設立背景や理念等について臨場感を伴って理解を深めることができました。

世界ではウクライナやガザ地区など世界各地で深刻な人道危機が続いています。

また、日本でも年初早々に能登半島を襲った震災により、多くの被災者が酷寒の中、避難所に身を寄せておられます。昨年は関東大震災から100年となる節目の年でもあり、日本赤十字社でも「温故備震展」や「赤十字NEWS」等で当時の日赤の活動状況や防災対策等を伝えておられる矢先の出来事でした。会員の皆様のご関係で被害に遭われた方もいらっしゃると思います。この場をお借りして心よりお見舞い申し上げます。

このような状況下、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」使命を担う日本赤十字社の役割は益々大きくなっているように思います。国内外での災害救護、人道支援を行う赤十字社の活動を支えるためには多くの人々の支援が必要です。赤十字活動資金、各種義援金・救援金など資金面からのバックアップの他、赤十字思想の普及活動等、多面的に赤十字活動を支えていきたいと強く認識しております。何卒会員の皆様には絶大なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様のますますのご健勝とご多幸をお祈りし、挨拶といたします。

令和5年度　有功会総会の開催

石井有功会長の挨拶

令和5年5月22日、第30回長野県赤十字有功会総会が開催されました。

第1部総会では、石井会長（当時）の挨拶に続き関副支部長から紺綬褒章、厚生労働大臣感謝状、社資功労感謝状及び赤十字有功章の伝達が行われました。その後の議事では第1号議案「令和4年度事業報告及び収支決算」、第2号議案「令和5年度事業計画（案）及び収支予算（案）」、第3号議案「役員改選」についてそれぞれ審議され、いずれも原案どおり承認されました。

有功会総会会場の様子

令和5年度新役員は別記のとおりです。

第2部講演では、大川伝承の会　只野英昭氏より「東日本大震災を体験して」と題して災害への備え、防災教育の重要さについてご講演いただきました。最後に「赤十字この1年　令和4年度」のDVD上映を行いました。

記

長野県赤十字有功会役員（敬称略）

会長	浅井 隆彦	（長野市）
副会長	畠山 悦子	（長野市）
同	島　宏幸	（松本市）
常任世話人	加藤　章	（長野市）
同	宮坂 直孝	（諏訪市）
世話人	村松 友春	（長野市）
同	金澤　勝	（長野市）
同	矢島 二子	（長野市）
同	堀口 美鈴	（飯田市）
同	町田 邦男	（上水内郡）
監事	小山 賢二	（上田市）
同	小橋 信子	（中野市）

令和5年　全国赤十字大会への参加

日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下、同名誉副総裁の秋篠宮皇嗣妃殿下、常陸宮妃華子殿下、寛仁親王妃信子殿下、高円宮妃久子殿下をお迎えした令和5年全国赤十字大会が5月18日、東京・渋谷の明治神宮会館で開催され、全国から赤十字会員やボランティアの代表など約1，600人が参加、本県からも30名うち当会員2名が参加しました。

毎年5月の赤十字運動月間に開催されているこの大会は、赤十字事業の発展に尽くした功労者を表彰し、日頃の活動に感謝する場であり、今年度は全国から個人・法人の代表13名・社に金色・銀色有功章が皇后陛下から授与されました。また、清家

明治神宮会館前にて

篤社長は式典冒頭のあいさつで、今なお続くウクライナの人道危機やトルコ・シリア地震、さらには国内の自然災害における全国からの温かなご支援への感謝の意を表明されました。

続いては、本社国際部国際救援課主事の矢田結さんからウクライナ人道危機の活動報告を、千葉県立四街道高等学校ＪＲＣ同好会部長の松本有紗さんからコロナ禍の非接触型ボランティアについて発表がありました。

また、5月から日赤公式アンバサダーを務める俳優でタレントの上白石萌音さんも登壇しました。挨拶の中で、日赤の活動に関わるきっかけとなった昨年のＣＭナレーションについて、「当時はまだ新型コロナウイルスが猛威を振るっていて、世の中も自分の心も停滞してしまっているように感じていましたが、そんな中でも立ち止まらずに動き続けている日本赤十字社のみなさんのことを知り、とても心を動かされ、励まされた」と振り返りました。

令和5年度　長野県赤十字有功会研修旅行

九州・赤十字 ゆかりの地をめぐる3日間

～佐野常民生誕２００年、来る長野県赤十字有功会創立30周年に寄せて～

中野　武

1日目

令和5年11月5日
佐野常民と
三重津海軍所跡の歴史館

今回ご参加の長野県赤十字有功会、赤十字奉仕団の皆さんは、南信10名、中信1名、東信1名、北信4名、支部職員2名の総勢18名（男性8名、女性10名）であります。羽田空港第二ターミナル通称時計台の下に集合して11時25分発の便で福岡に。福岡空港で福岡伊都バスに乗車。ベテランガイドさんが3日間面倒を見てくださった。バスは佐賀県に向かい佐野常民記念館と三重津海軍所跡に到着。ここは日本赤十字社前身の博愛社の創設者佐賀藩士佐野常民が携わった幕末の海事講習、造船所、反射炉などの施設跡と資料館です。はじめ医学を学んだ佐野常民は藩主鍋島直正の命を受け藩海軍創設にも関わった。幕末にスエズ運河以東で最大唯一の近代技術が確立された場所です。現在は科学史跡としての世界文化遺産に認定。長崎警護役で西洋列強の脅威に対抗すべき工業技術の必要性を痛感していた佐賀

佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館

藩は、西洋列強が経てきた産業革命を佐賀でも成し遂げるべく海外事情を収集、子弟教育の充実などの努力を重ねてきました。佐賀七賢人のひとり佐野常民はリーダー人材として藩の近代化、殖産興業を支え、さらには博愛社、日本赤十字社創設はじめ明治日本国に大いに貢献しました。記念館ではその巨人の足跡を辿りました。併設ホールでは篤志看護婦人会の展示が行われ、初期の日本赤十字社で行われた看護実践活動。気概と気品をもって救護・慈善活動を行い社会に奉仕した貴婦人たちの姿を紹介。2013年のNHK大河ドラマ「八重の桜」でも描かれご記憶の方も多いと思います。今回は九州八県赤十字大会開催記念でのテーマ展。

2日目
11月6日
吉野ヶ里遺跡
柳川川下り　田原坂公園

前日と異なり生憎の雨模様。午前一番に訪問したのは佐賀県の吉野ヶ里遺跡。日本最大の弥生時代環濠集落を復元したものです。弥生時代の始まりは米作の始まった紀元前5世紀とされますが、より古い痕跡も発見され今後書き換えられる可能性もあるようです。外敵からの防御のため大きな堀に囲まれた集落。卑弥呼の邪馬台国の九州説、畿内説など多くの謎と論争のある部分で最近も新しい発見の報道もありました。

次に福岡県の柳川市へ移動。有名な川下りは雨の中を雨具菅笠姿で体験。一時雨脚が強くなるも趣がありました。北原白秋を生んだ柳川。白秋以外にも多くの歌人が訪れ歌碑の多い街だそうです。運河はお濠や河川などを繋いだもので全長900㎞に及ぶという。「水に浮いた静かな廃市」の詩に水郷の街に寄せた白秋の哀惜を味わうことができました。下船後は少し歩いて旧柳河（川）藩藩主立花家のお屋敷で大広間や洋館、庭園を見学。昼食はウナギの蒸籠蒸しで

吉野ヶ里遺跡

柳川川下り

大変美味しく頂きました。

午後は熊本県の田原坂に移動。ここは西南戦争の最激戦地で多くの死傷者が出ました。そして日本赤十字社の前身博愛社誕生の地です。慰霊塔や田原坂西南戦争資料館、赤十字の展示館を見学。雨に煙るなだらかな丘陵が続く風景。西南戦争での死傷者3万人余。薩摩軍では12歳の少年も戦闘に参加しておりその戦死者を祭ったのが「美少年の碑」。政府軍は最前線の救護所、後方の軍団病院で負傷した自軍兵士を救護。一方、負傷した薩摩兵は見捨てられたようです。非武士階級の召集兵（政府軍）が武士階級（薩摩軍）を打ち負かせた戦いでもあります。徴兵制開設は明治5年、西南戦争は明治10年のこと。長野県から徴兵された兵卒と動員された巡査合わせて200名余が戦死、殉職したそうです。悲惨な戦闘での負傷者を敵味方なく救護する地元民の姿に、パリ万博で知った赤十字活動を重ね、博愛社設立に奔走した佐野常民の姿を思い浮かべました。

そののち熊本駅前のホテルに移動。夕食は「和食　仲むら」で肥後の名産物、地酒や焼酎を堪能しました。

美少年の碑

田原坂西南戦争資料館

3日目

11月7日 熊本城と熊本洋学校教師ジェーンズ邸・日赤記念館

熊本城

最終日はまず熊本城を見学。空中の遊歩道を歩んで天守閣に。平成28年の熊本地震の痕跡を残しています。幾度かの地震、合わせて西南戦争での焼失。西国の雄薩摩藩北進を防ぐため熊本、姫路、大阪、名古屋と巨城を配した家康の時代を遠く想いました。熊本城の次は最近移設された熊本洋学校教師宅ジェーンズ邸を見学。日赤記念館があり佐野常民が有栖川宮熾仁親王に博愛社設置を進言した部屋など見学。最後に水前寺公園近くの料亭「とらや」で昼食。美味しいお料理に加え、大きな生け簀もあり魚の泳ぐ姿も楽しみました。帰路は熊本空港14時40分発便で羽田に。気流が速く揺れもありましたが、快晴で秋の夕日に浮かぶ富士山を近くに眺め、平和の大切さを実感しました。空港で長野県赤十字有功会　浅井隆彦会長の解散ご挨拶のあと新幹線や中央線、チャーターバスを使って各人自宅に向かいました。

総括すれば駆け足旅行であったものの、博愛社そして日本赤十字社の源流を辿る目的は果たせたと思います。吉野ヶ里遺跡や柳川川下りも楽しむことができました。食事会では会員間の懇親を深められました。旅行を準備された支部の担当各位、旅行社添乗員氏に大いに感謝申し上げたい。佐野常民生誕２００年、来る長野県有功会創立30周年に相応しい研修旅行でございました。

ジェーンズ邸

赤十字事業への協力

令和5年度は長野県支部の要請に応え、開館から15周年を迎えた長野県赤十字歴史資料館の改修工事費用の一部を助成しました。この工事は主に外壁、柱、床及び土台等経年劣化により耐久性に不安がある箇所について重点的に行われました。

長野県支部の皆さんからは、修繕が必要な様々な部分について直していただいた。これからも赤十字の人道活動に従事した先人の偉功を後世に伝えるべく、当館の資料を発信していきたい、と感謝の言葉が寄せられました。

改修工事前

改修工事後（傷んだ外装、損傷の激しい土台を補強した）

あなたの思いを赤十字に

～遺贈・相続財産寄付をお考えの皆さまへ～

近年、「自分で築いた財産の一部を寄付したい」、「故人の遺産を社会のために役立てたい」というお声を多くいただいております。日本赤十字社を通じて、ご自分の財産や故人の意思を広く社会に役立てていただくことができます。

ご遺言等によるご寄付（遺贈）や相続財産のご寄付などの尊いご意志に応えるため、日本赤十字社長野県支部では、ご寄付の方法や税制上の優遇措置などを掲載したパンフレットをご用意しております。

遺　　贈・遺言によって財産の全部または一部を団体などの第三者に与えること

相続財産寄付・相続により取得した財産の全部または一部を寄付すること

詳細については、左記までお問い合わせください。

お問い合わせ先　日本赤十字社長野県支部　組織振興課
電話　026-219-2562

遺贈・相続財産寄付
ご案内パンフレット

WEB広告バナー
（日本赤十字社長野県支部
ホームページ掲載）

活動資金にご協力いただいた方々（敬称略・五十音順）

紺綬褒章

個人

春日 美智子　倉科 芳朗
増子 伸太郎

厚生労働大臣感謝状

個人

小口 邦彦※　小古井 豊※
橋本 智男

法人・団体

高島産業株式会社
長野赤十字看護専門学校同窓会

社資功労感謝状

個人

今井 正武※　小口 邦彦※
小口 祐子　小古井 豊※
塚田 次郎※　中野 武※
納富 廣幸

法人・団体

株式会社青木鐵工所
株式会社栄建※
株式会社エイワ機工※
株式会社クリーンウェイスト
株式会社信防エディックス※
有限会社春原工業所
宗教法人善光寺
株式会社とをしや薬局
長野赤十字看護専門学校同窓会
有限会社二村不動産
株式会社丸山工務店
医療法人清成会宮下医院
株式会社本久※
株式会社安井建設

金色有功章

個人

柄澤 重登　北島 正悟
倉科 芳朗　小林 保夫
小林 由枝　清水 武
清水 典子　鈴木 嘉男
鶴田 京子　橋本 智男
増子 伸太郎

法人・団体

飯島建設株式会社
高島産業株式会社
株式会社よしのや

銀色有功章

個人

大竹 久男　片瀬 武治
小林 邦一※　小松 重信
酒井 徳子　柴田 敬一郎※
関野 圭子　野村 光伸
東野 邦俊　堀内 昭英
堀内 淳次　前島 真
山崎 喜美　米津 祐介

法人・団体

今井クリニック
有限会社オブセ牛乳
株式会社喜久屋商会
株式会社協和精工
サンビラかわなかじま
株式会社システムアプリケーション
昭和建物株式会社
信毎書籍印刷株式会社
長野プラ販株式会社
なかむら内科小児科医院
明治安田生命保険相互会社

※当会員

新会員のご紹介（敬称略・五十音順）

個人

市瀬 キミ　小林 悦子
柴田 敬一郎　柴田 房夫
清水 深　水本 正俊

あとがき

この度は、原稿をお寄せいただきました皆さまのご協力により第31号を発刊する運びとなりました。誠にありがとうございました。

昨年は新型コロナウイルス感染症による日常生活の制限がほとんど無くなり、対面でのコミュニケーションの機会が増え、様々な活動が本格的に再開した年となりました。一方、世界に目を向けると、ウクライナの情勢は依然として緊迫した状況が続き、イスラエル・ガザ地区においても武力衝突が激化しています。さらには大規模な自然災害が頻発し、日本でも気候変動の影響を強く感じられました。

また、本年1月1日には能登半島地震災害により、石川県をはじめ北陸地方に大きな被害がもたらされました。長野県支部では、発災直後から救護班の派遣や救護物資の配布活動を続けております。

今後も、会員の増強をはじめ赤十字事業への更なるご支援ご協力をお願い申し上げます。

会員の皆さまのご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。

（有功会事務局）